

メイトルの つぶやき

さよなら、八百津！

信じられへん！本当に「さよなら、八百津！」というタイトルを書くのは、今でも想像することができません。時間が経つのはなんて早いのでしょうか。私が八百津町に国際交流員として来たのはつい昨日のこのように思えます。

8月上旬、私はイスラエルへ帰国することになりました。3年間、八百津に住んだことは素晴らしい経験であり、楽しい時間でした。八百津広報では毎月「メイトルのつぶやき」というコラムを書く機会を与えてくださった役場のみなさん、そして町民のみなさん本当にありがとうございました。みなさん、楽しく読んでいただけましたか。

最近「国際交流員の仕事をすること、また八百津町に住んでいること、それは、私にとってどういう意味を持っているのか」と自分自身によく問いかけます。最後のコラムでみなさんと一緒に私の考えを分かち合いたいと思います。



八百津町はイスラエル人、ユダヤ人にとっては特別な場所です。6,000人のユダヤ人を助けた杉原千畝氏の誕生した町だからです。それについて考えると、

私が、八百津町の国際交流員として杉原氏の功績を後世に伝えることは、とても重要なことだと感じています。その大事な任務につかせて頂き感謝しています。私は、これまで多くの日本人やイスラエル人に杉原千畝記念館の案内・説明をしました。イスラエル人として、杉原氏とホロコーストについて説明をすることは、私にとって深い意味を持ちます。そして、国際交流員として杉原氏に助けられた生存者やその家族と八百津町の橋渡しの務めも担いました。それも、私にとって有意義な仕事でした。私はイスラエルに帰ってからイスラエルの人々に杉原氏の話、八百津町の話をお伝えしたいと思います。

八百津町の子ども達にさまざまな活動を通して接することは面白く素晴らしい経験でした。学校訪問、料理教室、餅作り、プーリム・カーニバル、キッズイングリッシュ、



英語研修などです。ところで、私は料理することが苦手ですが、八百津の国際交流員としていろいろな場面で料理教室をたくさん行いました。私は自国の料理、食文化を紹介

できることがとても嬉しかったです。多分、これから料理をすることが少しずつ得意になるかなあ…。

そして、さまざまな場面で講演・ゲームなどを通して、

イスラエルの豊かな文化を紹介させていただきあ

りがとうございました。また、日本人にヘブライ語(母国語)を指導することは、一生に一度の経験でした。ある場合は、ヘブライ語講座の参加者からヘブライ語の意味について難しい質問を受け、答えられないこともありましたが、国際交流員の仕事を通して何でもチャレンジしました。

そして、八百津町役場の産業課の同僚と一緒に農業に関する仕事を初めて体験しました。私は八百津に来る前はずっと都会に住んでいました。しかも、イスラエルではたんばがないので稲刈りや植林の活動などに参加することが本当に特別な経験であり、永遠に忘れません。しかも、田舎で暮らしている人々にとって自然が重要な位置を占めているということを理解するようになりました。

3年前に私は夫と一緒に八百津町に来ました。8月に帰国する時、2人ではなく3人で帰ります。平成23年11月2日に八百津で私の息子ゾハーが生まれました。その日以来、八百津町民がたくさん手伝ってくれました。本当に有り難いことでした。新しい母として子育て支援はすごく役に立ちました。ゾハーはまだ赤ちゃんですが、彼にとってもほぼ2年間八百津町で育ったことは貴重な経験になると思います。

私は3年間八百津町の町民のみなさんと生活をともにすることができ、とても楽しかったです。毎年行われる夏祭り、節分、産業文化祭、収穫祭などのイベントにも参加しました。そして、八百津弁を教えて頂きありがとうございます！「ほんなら」「知らなんだ」などの言葉は忘れません。八百津町民のみなさんは私を暖かく迎えてくれました。八百津町の地域社会の中で生活することは、私にとって忘れられない体験になりました。このような機会を与えてくださった、杉原氏、八百津町民のみなさんに感謝しています。私の人生は豊かになりました。

行事に参加された方、「メイトルのつぶやき」を読んでもいただいた方、八百津のいろいろなところで挨拶していただいた方、私と私の家族を助けてくださった方、八百津町のみなさん、ありがとうございました！また会いましょうね！

